

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(南伊勢高等学校 南勢校舎)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		○自らの力で自分の将来を切り開き、地域社会に貢献する“ひと”を育成する学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	○自立に向け、基本的生活習慣と基礎学力を身につけた生徒 ○自分の夢を明確にし、希望する進路に向け、自ら努力し続ける生徒 ○自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒
	ありたい教職員の姿	○共通認識のもと、生徒に寄り添い、生徒の個性を最大限伸長させる教職員 ○小規模校の利点を活かす新しい発想を創造し、活力ある教育活動を展開する教職員 ○地域と共に歩み、地域から信頼される学校づくりを行う教職員 ○総勤務時間削減を意識し、ワークライフバランスを大切にする教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<生徒・保護者> 基礎学力の定着。規律ある充実した学校生活。希望進路の実現。 <地域社会> 将来的に、地元地域で生活し、地域社会に貢献できる人材の育成。 <中学校> 学習面、生活面での中学校からの指導の継続。将来自立できるための力の育成。取組内容の中学生及びその保護者への浸透。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<保護者> 学力向上。確かな進路保障。 学校との信頼関係。 <町・町教育委員会> 地元地域の活性化を担う人材育成。 生徒の進路保障。 <地元企業等> 将来的に、地元地域に勤め、地域社会を支えてくれる人材の育成。	<保護者> 学校と連携した家庭での生活指導・学習活動への協力。 <町・町教育委員会> 学校運営協議会等を円滑に進めるための協力。地元への就職支援。 <地元企業等> インターンシップ等教育活動への協力。 地元企業の採用増加。
(3)前年度の学校関係者評価など		・基礎学力向上をはじめ、きめ細かな教育、ICTの積極的な活用など、「現状に即した教育」や、挨拶・清掃をはじめとする「基本的生活習慣の確立」等に向け、非常に丁寧に取り組むことが出来ている。次年度からは、度会校舎での学びの機会が増えるが、引き続き粘り強く指導し、生徒の成長を促していく必要がある。	
(4)現状と課題	教育活動	多様な生徒が在籍するなかで、基礎基本の定着を大切にした教育の実践と生徒一人ひとりへのきめ細かな指導により、地域から一定の評価を得ている。また、地域からの支援を得て「地域創生」の教育内容を充実させている。 今後、少人数教育を行う中で、生徒のより幅広い教科・科目の受講や学校の枠を越えた交流等、さまざまな教育機会の充実につながるよう、ICTを用いた遠隔授業等の取組を進める必要がある。	
	学校運営等	地域に密着した県立高校として、地域への貢献も視野に入れ、近隣の小中学校と連携した取組や、多様な年齢・立場の人々と係わる取組を行い、地域から一定の評価を得ている。 また、度会校舎と共に一つの学校としての機能を強化していく必要がある。併せて、両校舎の教職員数の減少を受け、様々な校内組織の見直しを行う必要がある。	

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	・自他の命を尊重し、社会的自立に向けて基礎基本の学力と差別をなくす実践力を身につけさせるとともに、高い自己肯定感を持ち、自ら考え適切に行動できる生徒を育成する。 ・個々の能力・適性に応じて、自らの将来を主体的に考え、希望進路の実現に向けて積極的に取り組む生徒を育成する。 ・基本的な生活習慣や社会的規律・礼儀をしっかりと身につけ、心身ともに健康な生徒を育成する。 ・二校舎を取り巻く自然環境や文化を活かした教育活動を行うとともに、部活動等を通じて生徒の交流を促進する。
学校運営等	・地域の多様な主体と連携・協働し、地域からより信頼される学校づくりを推進する。 ・度会校舎と共に一つの学校としての機能を強化していく。 ・業務改善を積極的に行い、勤務時間の縮減に努めることにより、より質の高い教育を目指すとともに、ワークライフバランスに配慮しながら教員の一層の資質向上に取り組む。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	○目的意識を明確に持ち、自己実現に向けて意欲的に取り組める者 ○体験学習など、地域に根ざした教育活動に積極的に取り組む意欲のある者 ○スポーツ・文化活動やボランティア活動または生徒会活動に積極的に取り組む意欲のある者
--	---

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導等の充実	(1)基礎学力の定着を図り、基本的な学習習慣を確立させる。 【活動指標】日頃から授業規律の徹底を図り、学び直し教材を利用した学習を行うとともに、基礎力診断テストを1・2年生対象に年3回、3年生対象に年1回実施する。全教員による補習を実施する。 【成果指標】基礎力診断テストによる基礎・基本養成レベル(D3-)の生徒が10%未満となり、上級判定となる生徒が増える。 (2)校則にかなった服装を徹底させ、規律を守り、落ち着いた生徒を育成し、落ち着いた学校を浸透させる。 【活動指標】学期に2回程度、頭脳指導を行い、また日常からチェック制度を維持し、指導を行う。 【成果指標】生徒は自己管理能力を高め、高校生としてふさわしい行動・身なりを身につける。	(年度末および適宜記載)	◎

	(3)生徒が安全に安心して学校生活が送れるよう教育相談体制の充実に努めるとともに、生徒はもちろん、保護者・地域と連携し、いじめを許さない学校づくりに取り組む。 【活動指標】いじめ防止に関わるアンケートを学期に1回行い、日常から生徒指導、教育相談の機会を設ける。 【成果指標】生徒は小さな問題でも教員に相談することができ、安心して学校生活が送れることができる。 (4)交通マナーを守れる生徒を育成するとともに、交通事故がなくなるように取り組む。 【活動指標】自転車安全指導を企画し、安全教育を行う。また毎月、期間を決めて街頭での交通指導を行う。 【成果指標】生徒に交通安全の意識が高まり、登下校中の危険が減少する。また、交通ルールを遵守する意識が高まる。		
キャリア教育の充実	(1)授業や学校行事を通じて地域との繋がりを推進し、地域に貢献できるリーダーの育成を目指す。 【活動指標】 ・学校設定教科「地域創生」の学校設定科目「地域課題研究」において、外部講師による講演またはフィールドワークを年5回以上実施する。 ・ボランティア活動として、清掃活動等を実施する。 【成果指標】生徒が地域の魅力を再発見するとともに、課題を見つけ、解決方法を模索できるようになる。 (2)社会人として必要な態度・マナーを習得させ、将来にわたり社会への貢献を考えさせる。 【活動指標】進路ガイダンスや講演会を実施し、手厚い個別指導を行う。 【成果指標】就職内定、公務員試験合格、進学志望校合格100% (3)自らの適性を理解し、自己肯定感を持つとともに、生きることの尊さや生命のかけがえなさを理解し、自他の生命を尊重する姿勢を育てる。 【活動指標】人権LHRの開催と、外部講師による講演会を1回以上実施する。 【成果指標】生徒の人権意識が向上する。	(年度末および適宜記載)	※
ICTを活用した授業等の推進	(1)教職員が以下の視点を大切にICTの活用に取り組む。 ・ICTを活用することにより、個々の生徒に応じた指導を推進する。 ・生徒のICT活用能力を育てる。 ・ICTを活用することにより、「協働的な学び」を推進する。 ・ICTを活用することにより、何らかの理由で登校できない生徒の学習や、非常変災等による臨時休校時における学習を保障できる体制をつくる。 【活動指標】ICTを活用した授業等の推進するための教職員研修を2回以上実施する。 【成果指標】教職員一人ひとりのICT活用のスキルが向上する。	(年度末および適宜記載)	

改善課題
(年度末に記載)

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	(1)教職員一人ひとりのコンプライアンス意識をより一層向上させる。 【活動指標】学校信頼向上委員会を積極的に活用し、不祥事根絶に向けての教職員研修を年3回以上実施する。 【成果指標】教職員一人ひとりに、コンプライアンスに主体的に取り組む姿勢が育成される。 (2)教職員一人ひとりの人権意識をさらに向上させる。 【活動指標】人権講演会または研修会を年1回以上実施する。 【成果指標】教職員一人ひとりにより、より充実した人権教育が実践される。 (3)教職員一人ひとりが、特別支援教育の観点から、生徒の実態に即した対応が出来るようにする。 【活動指標】特別支援教育研修会を年1回実施する。 【成果指標】教職員同士で多様な生徒の実態が共有され、生徒の困り感に対して柔軟な支援がなされる。 (4)防災・防犯等に係る非常時の対応力の強化を図る。 【活動指標】防災訓練等を実施する。 【成果指標】生徒の安全・安心な学校生活が保障される。	(年度末および適宜記載)	◎
働きやすい職場環境づくり	(1)総勤務時間の縮減に努める。 【活動指標】 ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 100% ・計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 100% ・放課後に開催し 60 分以内に終了した会議の割合 100% 【成果指標】 ・1人当たりの月平均時間外労働時間 13時間/月 ・月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 ・年 360 時間を超える時間外労働者の人数 0人 ・1人当たりの年間休暇取得日数 21日/年	(年度末および適宜記載)	※
情報提供による信頼の構築	(1)学校の教育活動や生徒の取組等について、報道機関等へ積極的に情報を発信する。 【活動指標】 ・ホームページによる情報提供を適宜行う。 【成果指標】 ・地域の広範囲に学校の取組が伝わる。 ・中学生やその保護者、地域の方等に学校の様子が正確に伝わる。	(年度末および適宜記載)	

改善課題
(年度末に記載)

6 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次への 取組方向	(年度末に記載)
-----------------------------	----------

7 次年度に向けた改善策

教育活動について の改善策	(年度末に記載)
学校運営について の改善策	(年度末に記載)